

## 第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

### 尿道狭窄の治療としての 漢方薬の有用性について

独立行政法人国立病院機構神戸医療センター 泌尿器科  
大岡 均至

**【目的】** 柴苓湯投与による、1) 経尿道的前立腺切除術(TUR-P)術後の術後尿道狭窄予防効果、2) 臨床的に確認された尿道狭窄に対する効果につき検討する。

**【対象と方法】** 1) TUR-P術後の術後尿道狭窄予防効果の検討; 過活動膀胱を伴わない前立腺肥大症症例142例(背景因子に差なし)を対象とした。TUR-P術後より柴苓湯3.0gr(1日3回、食前、3ヶ月間)投与群(70例)と非投与群(72例)にランダムに振り分け、その効果をレトロスペクティブに判定した。すべての症例は同一術者で、平均手術時間41.5分、切除組織15.5-48.5(平均22.0)gr。術前に尿道膀胱鏡にて狭窄の無いことを確認し、術後尿道狭窄の有無は患者本人からの1ヶ月以降の排尿困難の増悪の愁訴、尿流量測定値の増悪により尿道鏡を施行し、直視下に確認した。最終評価は術後9ヶ月の時点で行った。

2) 臨床的に確認された尿道狭窄に対する効果; 上記の症例の内、柴苓湯非投与群において術後に認められた尿道狭窄に対し柴苓湯を3ヶ月間投与し、その効果につき検討した。

**【結果】** 柴苓湯投与群と非投与群で尿道狭窄の発生率に有意差が認められた( $p=0.043$ , Chi-square test, Odds比; 0.12 [95%CI; 0.01-0.95])。投与群1例に認められた狭窄は軽度、非投与群8例の狭窄は中等度以上の膜様部狭窄であった。また、非投与群に発生した尿道狭窄に対し柴苓湯を投与したところ5例に狭窄の改善が認められた。

**【考察】** 柴苓湯は小柴胡湯と五苓散の合方であり、少陽病の水滯、即ち水分の吸収・排泄障害を伴う病態に対する方剤で吐気・食欲不振・下痢・胃腸炎・浮腫等の病態に用いられてきた。柴苓湯の薬理学的研究から、視床下部を介してコルチゾール分泌を促進する作用、線維化抑制作用、抗酸化作用等の多彩な効能が認識されつつある。尿道における作用として急性期(手術・外傷)の肉芽形成抑制、慢性期の線維化防止等より尿道狭窄への臨床効果が期待される。従来より泌尿器科領域では尿管狭窄術後再発予防・後腹膜線維化症・形成性陰茎硬化症・出血性膀胱炎・硬化性脂肪肉芽腫などに対する有用性が報告されてきた。手術・処置等に伴う経尿道的操作は現在においても汎用される手技であり尿道狭窄の予防、並びに治療は極めて重要であると考えられる。

**【結語】** TUR-P後の柴苓湯投与は、術後尿道狭窄を予防する。加えて、臨床的に確認された尿道狭窄に対しても狭窄の改善効果が認められた。これらの事実は、尿道狭窄症例に対する尿道切開術等、現時点では長期の臨床的有用性が期待できない手術の治療成績をも改善する可能性がある。